



挨拶

〔司会〕

ご多用中の所、大変大勢の皆さまにご来場いただきまして、ありがとうございました。ご案内をいたしました事務局としまして、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。また、席、通路の方が狭くなっていますがどうかご容赦下さい。

それでは、ただいまより、国土交通中部地方懇談会フォローアップ会議主催によります、国土交通P・I・シンポジウム中部のめざすべき方向、中部のグランドデザインに求められる視点を始めさせていただきます。

最初に、主催者を代表しまして中部地方整備局長清治真人よりみなさまに開会のご挨拶をさせていただきます。

〔中部地方整備局長〕

国土交通省中部整備局長清治でございます。主催者を代表しまして一言ご挨拶をさせていただきます。本日は大変お忙しい中、多数の方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また今日のシンポジウムに関しまして、基調講演、それから、パネルディスカッションをご快諾いただきまして、参加していただきました先生方にも、厚く御礼申し上げます。

国土交通省は昨年1月6日に従来の4省庁が統合されまして、大きな省として発足しました。1年と1ヶ月がすぎようとしていますが、この間各地域の皆さま方には、私どもの基盤整備等にあたりまして非常に身近なところでご意見を頂戴しながら、行政を進めていきたいということで、色々な形で皆様方にお話を聞く機会、それから国土交通省の考え方を聞いていただけるような場を持つような努力をしてきたところでございます。

国土交通省の仕事は、いうまでもありませんが、基盤整備等、それから従来運輸省が進めておりました、中部運輸局がやっております、観光、交通行政というようなところでありますが、そういう中で大事なことは国民からの意見を充分聴取させていただきまして、行政に反映していくことだと思っているわけです。今日の会もそういう意味ではご出席の皆様方に、講師並びにパネルディスカッションのメンバーの方々に色々な課題の認識であるとか、問題解決についてのご提言をいただけたらと思いますが、それを是非共通の認識としてもっていただいて、この地域が全体的に発展していく、それがまた国のためになる、それぞれの立場でいろいろ考えていただくため

のきっかけにしたいと思っているわけです。国土交通行政につきましては、省庁発足時に使命というのを掲げさせていただきました。これは、個人の生活ということの重要性、産業基盤がしっかりしていて、国際的な競争力をしっかりと持った地域、それから、当然その元になるところでは、安全安心というところが重要になってくるわけです。安全基盤としましては洪水対策というのもありますが、そのほかに、この地域では地震の対策というのが非常に重要な課題となっております。そういう物に取り組む。それから、忘れてはならない環境という面でのいろいろな配慮もございますし、いまや環境につきましては、復元して創造していくようなところまで、視野に入れて進めていかなければなりません。5点目には、地域の色々な特性を発揮できるような基盤整備をしていかなければなりません。

5つの使命を掲げて、取り組んでいるわけでありますが、そのようなことを具現化していくために、大きい省庁になって、全体的・総合的に地域が見られるようになっていなければならないということと、先を見通した社会、社会全体が先を見通して、例えば企業においては設備投資であるとか、国民一人一人では生活設計が建てていけるような、そういうようなビジョンを示していくべきだという大臣からの直接の話がございました。発足後3ヶ月間に各地域のブロックに大臣以下本省の幹部が地元の自治体それから、経済界の方々といろいろとお話しをさせていただくということを行わせていただきました。中部に置きましては3月31日に開催いたしました。地元の方々とはビジョンについて、お話しをさせていただいたという経緯があります。その場で、大臣のほうから、こういう地方懇談会というのは、やりっ放しで、済ますわけには行かないということで、これをしっかりとフォローして、実現につなげていくようなそういう組織を皆さま方との連携のもとに、発足させてしっかりとフォローアップしなさいというお話しがあったわけでございます。年が明けて、つい先日も各ブロックから局長が集まりまして会議を行いました。その席でも大臣は、非常にその辺は気にしておりまして、1年たったけれどもしっかりとそのへんはできているのかという話がございました。中部につきましては、事務局として、中部整備局と運輸局がそういう方向で努力していこうということで、取り組んでいるわけでございますが、皆様方のご協力を得まして、フォローアップ会議というのを昨年の6月に発足することができたわけでございます。その後、色々な場を通じまして、例えば産業競争力につきましては企業の方々のご意見を聞かしていただくとか、地域づくりに取り組んでいらっしゃる皆さまの意見を聞きし



ていただくとか、地域の情報収集であるとか、地域からの発信に対して支援をしていく、という
ような取り組みで、現在鋭意取り組んでいるわけでございます。その地域からの情報発信という
ような位置づけでも今日のシンポジウムは非常に重要な会になろうかと思っています。

中部のめざすべき方向ということで、今日議論を深めていただく、また、共通認識を深めてい
ただくわけでございますが、いま考えております、めざすべき方向としましては、事務局として
考えているのは4点あります。一つは世界に通用するモノづくりがなければ日本が成り立たない。
現在、産業空洞化等が問題になっておりますが、お手元の資料にもモノづくりの中部の生産額と
いうのが伸び悩んでいます。そういう中で、空洞化が進んでいるという実体も示させていただきました
が、国際的な競争力というのが非常に重要になっています。そういう中で、モノづくり
産業の集積というのは一つの大きい課題であると認識しています。2つ目には、この地域は江戸
時代から分散型の都市構造をしております。名古屋を中心として、周辺の城下町においてはそれ
ぞれの地域にあった産業を育んできているわけでございます。そういうなかで、広範囲に農業地
帯もございますし、環境もすばらしいということもあるわけでございます。そういう現状をこれ
からさらに活かして、生産と暮らしと環境と安全、これらが調和した圏域づくりということをめ
ざしていかなければならない、というのが2点目であります。3点目には、暮らしの成り立ちと
か、豊かな自然、歴史、観光について圏域内に多様な資源があるわけですが、そのような理解を
深めるなかで、交流ということを徹底的に促すことによりまして、これらを活かす方向に持って
いかなければなりません。さらには、世界に向けましては、2005年の国際博覧会の開催、中
部国際空港の開港もございまして、そういうものを契機にしまして、世界の交流も活性化してい
かなければなりません。4点目にはこれは中部地方の国土の特性としましては、中央に位置してい
ます。ある面では利点であるわけでございますが、ある面では東京圏と大阪圏の中に埋もれてし
まって目立たない存在になっている、ということもありますが、これらを高速交通体系でしっ
かりと結ぶことによりまして、連携分担というところを、再度磨きをかけて、国際的に通用す
ような圏域を形成していくということを目指していかなければなりません。これらの4点を考え
ておりますが、参考になればと思います。

色々な現状認識や課題がありますが、それぞれの色々な各界の方がお集まりだと思いますので、
それぞれの立場で考え、そして、実行に移して行っていただければありがたいと思います。今日

のこの会は出発点だという認識でいただければありがたいと思います。シンポジウムが実り多い、また、参加いただいた皆様方から多くの意見がこれからいただけるように期待しまして、このシンポジウムを主催しましたフォローアップ会議の立場で一言ご挨拶させていただきました。今日は宜しく願いいいたします。

[司会]

ありがとうございました。申し遅れましたが、事務局のお手伝いをさせていただいています東海総合研究所の加藤と申します。よろしくおねがいします。

それでは、早速、第一部の基調講演に入らせていただきます。講師の先生は中京大学教授で株式会社東海総合研究所理事長の水谷研治先生です。水谷先生は1956年に東海銀行にご入行後、調査部長、専務取締役などを歴任され、1993年により株式会社東海総合研究所にて代表取締役社長、会長を務められ今日に至っているわけです。また、現在は国の公務員制度調査会委員、財政制度等審議会専門委員を務めておられます。本日は、日本経済の行方と中部の社会資本政策に求められる視点をテーマに、これより、2時20分程度まで、お話しをちょうだいいたします。それでは水谷先生宜しく願いいいたします。